

課題

1

王様、美しい3人の娘を持つ王様がいました。長女は隣国の王と結婚しました。次女は敵国の王子と結婚しました。三女は銀行の頭取になりました。そしてみんな幸せに暮らしました。

冠詞 a, an, the を使い分ける練習です。隣国はこの国しか存在せず、敵国はほかにもあり、この敵国にはほかに王子がいると仮定して冠詞を決定してください

小学6年生によるリズム感ある佳作

Once upon a time, there was a king who had three daughters. His oldest daughter married the king of the next country. His younger daughter married a prince of an enemy country. His youngest daughter became a bank president. And all lived happily.

—— 濱中郁子さん(大阪府)の作品

ポイント

- ▼ 不定冠詞 a = 不特定の「ある1つ」(初登場、未知など)
- ▼ 定冠詞 the = 相手にも特定できるもの(前出、既知、唯一など)



冠詞はハッキリした文を作るスパイス

「冠詞の使い方ってほんとうに難しいですね。私は英語を話すとき、冠詞の使い方を間違えたり、落としたりします。それでネイティブの方から『君の英語は、塩味の抜けたシチュウのようだ』と言われたことがあります。(愛知県・中村智子さん)

英語は特定(the)・不特定(a, an)をハッキリさせる言語です。theの意味

は「さきほど述べた〜、誰でも知っている、〜この世にひとつしかない」など、この反対が a, an (複数ならば無冠詞にする)。the は日本語に存在しない、日本人にとって異質な概念(特定感)です。

冠詞の考え方を説明するために、課題をふくらませ劇に置き換えて説明します: 世界に王様は多数いるが、昔あるところに、観客(読者)の皆さんは知らない、ある1人の王様<不特定、a king>がいました(劇であればこの時点で王が舞台上に登場、その顔にスポットライトが当たり、その瞬間に観客の意識のなかで既知の王様 the king となる)。この王様には、皆さんは知らない娘さんたち<不特定かつ複数なので無冠詞、daughters>が3人いた(ここで舞台上に輝くばかりのA, B, Cが登場、この瞬間からは彼女たちは観客にとって既知の存在 the daughters と言える)。この3人で一番年上の娘<つまりAさんと特定できるので the oldest daughter>は、この国にとって唯一の隣国<the neighboring country>の王<1つの国に王は1人しかいないので特定可能な人物、つまり the king of the neighboring country>と結婚した。2番目の娘(Bさんと特定できるので the second daughter)は、周囲にいくつかある敵国のなかのある1つの国<an enemy country>の、(その国で)何人かいる王子たちのうちのある1人<a prince>と結婚した。一番若い三女(Cさんと特定できるので the youngest daughter)は、ある銀行<a bank>の頭取<the president of a bank。どんな銀行にも頭取は1人しかいないので、この書き方の場合は特定できる>になりました…。

濱中作品は読みやすくリズム感があり、普通話にふさわしい作品で、冠詞もすべて正解。「美しい」を訳し忘れたので、最後の詰めが甘かったようです。「隣国」として the next country (濱中作品)とありますが、next は行列で並んでいるときの「次」という感じで不自然。the neighboring country beautiful は心が興奮する美しさ。pretty は「少しだけ beautiful」。『美しい3人の娘』は英語では順序が逆な「3人の美しい娘」(three beautiful daughters)とするのが自然です。

there was a king with three beautiful daughters と書くと、王様が娘たちを腰にぶら下げて携帯(with)している感じに聞こえます。there was a king having three beautiful daughters (新潟県・泉田亮平さん)は出産中(having)という感じです。